

# 連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1277 2024/03/07 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email [renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp](mailto:renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp)

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

## 平川理恵広島県教育長の「退任」について(見解1次案)

～学校や子どもたちを大切にする広島県教育行政に～

子どもと教育くらしを守る県立学校教職員連絡会(高校連絡会) 2024/03/07

平川教育長の辞任について、高校連絡会としての「見解」(案)＝原案作成 本間英次 を掲載します。3月10日に予定されている県幹事会での検討を経て、正式見解作成する予定です。皆さんからのご意見も可能な限り盛り込んでゆこうと思っています。

上記 Email [renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp](mailto:renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp) までお寄せください。

平川理恵広島県教育長が「退任」する。湯崎知事も平川氏も任期満了の「退任」といっていますが、記者会見でも「官製談合」問題が質問されたように、私たちの署名活動、裁判のたたかい、そして県民世論が「統投不能」に追い込んだというのが本当のことでしょう。高校連絡会では、平川教育長の振る舞いについての問題点を何度も指摘してきましたが(\*)、あらためて平川広島県教育長の罪を振り返り、信頼を失った広島県教育行政のあり方について考えました。

### 平川教育長による公教育の私物化が教育行政を歪ませた！

平川教育長は、親密な関係のNPO法人との契約が法令違反と指摘された問題などについて「大変重く受け止めるとともに、これらの責任はすべて私にある」と会見で語っています。“お友だち”の業者や個人を重用し、利得やさまざまな便宜を与えた振る舞い、自らの疑惑解明の調査費用に莫大な公費を支払った問題、あるいは出張のためにタクシー代を年100万円使う税金に対する常軌を逸した感覚など、ルールに基づいて公正であるべき教育行政の作法を大いに歪めてしまった責任を、平川教育長が第一義的に負わなければならないのは当然です。高校連絡会は、2022年8月の「文春砲」により問題が明らかになって以来、一貫して平川氏の辞任こそ、疑惑解明と教育行政の正常化の第一歩であると考えてきました。

### 上意下達の組織のあり方が、平川教育長の不正を増長させた！

平川教育長は就任当初「(県教委内で)忌憚のない意見を出してもらおうように努めている。」「自由にものが言えるような雰囲気を作っていきたい。上司には言えないとか、年齢がまだ若いから言えないなど、そういうことがないようにしていきたい。」と語っていましたが、一連の違法、不正行為や疑惑が、平川教育長に何も言えない逆らえない構図の中で起こってきたことは、言行不一致も甚だしく、罪は深いと言わざるをえません。一方で、県教委幹部職員も、違法、不正と認識しながら“教育長案件”として契約をすすめたり、児童文学評論家赤木かん子の図書館リニューアル事業において、図書の廃棄や購入について現場の教員が「小学生向けの本は高校生には向かない」と相談したにもかかわらず、県教委から「買うように言われた」と証言しています。トップの案件とあって、幹部職員が唯々諾々と従ったり、忖度する行政には私たちには既視感があります。安倍政権の、「森友」、「加計」、「桜を見る会」の疑惑に見られた、トップの私物化が公正・公平であるべき行政を歪めた構図と同じです。とりわけ教育行政は、子どもの学習権、親の教育権の委託を受けて行われるものであり、公正、公平で高い透明性が問われるのです。県教委の職員自身も「教育長の意向を忖度してしまう空気や、教育長の機嫌を害する悪い意見、情報を届けられないような雰囲気組織内にあった」と打ち明けます。県教委全体の責任も重いものがあります。トップの意向に誰も何も言えない組織体質の払拭は、新しい教育長に課せられた喫緊の課題だと考えます。

## 平川教育長の振る舞いは子ども、生徒、保護者、現場の教職員、県民の信用を失墜させた！

平川教育長のルール違反、倫理観の欠如について、退職された元高校の校長先生が2回も中国新聞に投書されています。退職されているとはいえ校長という立場から名前を明らかにして投書されたことは異例のことだと思います。それだけ思いあまるものがあつたのでしょう。現職の校長や教職員の気持ちも同じだと思います。

現場の教職員は、研修を積み重ね法令遵守、教職員としての倫理感、服務規律の遵守が徹底されてきました。現場の教職員をはじめ県民の怒りは相当なものでした。高校連絡会は全教広島とともに2022年12月23日に、外部専門家による「調査報告書(概要)」が公表された段階で「県教委『官製談合』疑惑の全容解明と責任の明確化を求める」要請書を平川教育長宛に提出しました。要請内容は以下の4点(要旨)です。

1. 全容解明を早急に実施し、その調査結果を公表すること。
2. 官製談合疑惑の対象となってきた事業などが、県内の学校教育、児童・生徒にどのような影響を与えているかを検証し、教育行政のあり方、子どもの教育への影響について真剣な調査と検討を行うこと。
3. 図書館リニューアル事業、教育コンサルタント業者との疑惑などについても調査と全容解明を行うこと。
4. 教育長および県教委幹部が関係業者と飲食をともにしたと報道されています。これが事実であれば、「広島県教育関係職員倫理要綱」を大きく逸脱するものです。真偽を明らかにするとともに、どうしてこのような事態に至ったか、教職員および県民に説明すること。

湯崎知事と、平川教育長は、教育長自ら月給10分の3、2ヶ月返納、1名の職員の処分(のち人事異動で現場校長に転任)で2023年早期に、この問題を終わらせようとしたのですが、「疑惑解明」を求める市民の会を中心に、平川教育長の辞任と疑惑の全容解明を求める署名運動、学習会、そして刑事告発、平川教育長に損害額を返還させる民事裁判を提起しました。議会内でも「終わったこと」にしようとする与党会派に対して、保守系会派の一部や日本共産党会派の議員が、議会での質問追求を続け、中国新聞などのマスコミもこの問題の報道を続けました。背景に、平川教育長や湯崎知事に対する教職員や父母・県民の大きな不信と怒りがあつたからです。

## 広島県の教育の正常化のために～県教委がやるべきこと

平川教育長は、退任会見で「主体的、対話的な深い学びの実践」など学びの改革や、不登校対策の推進などを成果として強調していますが、主体的な学びの「必須アイテム」として1台6万~7万するタブレット端末を「生徒が個人で使用する副教材などと同じ」つまり鉛筆やノートと同じという理由で保護者負担での購入させたことに多くの批判や意見がありました(2021年時点保護者負担21自治体、公費負担18自治体)。

何よりも子どもたちの主体的で深い学びを保障し、不登校生徒をなくすためには、少人数学級の推進は、焦眉の課題だったはずです。「少人数学級の実施は国の基準にもとづいて」「少人数学級の(中学校や高校への)拡大も国の責任」という議会答弁をくりかえし、あくまで単県措置としての少人数学級の実現を拒否してきました。(あさイチの放送された2020年時点で小学校3年生以降の35人以下学級を単県で実施をしていないのは全国で大阪と熊本と広島県だけ)

平川教育長は、さまざまな機会に、一人ひとりの子ども(生徒)たちに向き合うこと、そしていじめなどを防ぐためには「いかに教職員がアンテナを高くできるか」を強調していました。それなら“どこもやっている”少人数学級の導入こそ一番効果がある。先生の数を増やし、学級の子どもの数を減らせば、先生の多忙化も解消され、子どもの様子をきめ細かく見ることができ、学習のつまずきや生徒の異変にも気づくことができます。これはすでに検証済みのこと。

広島叡智学園のようにエリート校には資金をつぎ込み、生徒数が少ないからといって学校の統廃合に熱心なのは、一人ひとりの子ども(生徒)を大切にすることには逆行するのではないですか。

「成果」の一つとして高校入試改革も上げられています。その目玉「自己表現」に対する不登校生徒の悩みを新聞で読みました。「自己表現にどう取り組めばいいのだろう」。“自分らしさ”は個別的、主観的で人と比べられるものではないはず。自己表現はその自分らしさを相対化・客観化し数値化して合否判断にしようというもの。自分らしさが学校生活の中で受け入れられなかった不登校生徒にとって酷な話です。ある高校生が「個性の問題なのに点数をつけるのはいけないこと」と答えています。その通りです。少なくとも自己表現は“成果”として語られるものではありません。

平川教育長の最後の仕事は、広島県教育委員会とマクドナルドとの教育連携協定です。全国初だそうです。公教育(行政)の一部が民間企業であるマクドナルドに委託されることとなります。民間活力の導入を叫んできた平川教育長、湯崎知事にとって象徴的できごとです。2020年10月号の「ヒロシマの子育て・教育」(広島教育研究所)“福山市小中学校の図書室がおかしくなっている!”の告発レポートは衝撃でした。福山市の小中学校の図書室が、現場の学校図書室補助

員の先生方の努力によって、「少ない予算の中で手作りでコツコツと本の紹介やポスター・イラストなどを作成し、モノトーンだった図書室が、爽やかな音楽まで聞こえてきそうな明るくステキな場所へと変わった。…図書室が本好きの生徒でなくても立ち寄って本を開いてみたくなるような場所へと変わった。」その努力が、平川教育長の“お友だち”赤木かんな子によって土足で踏みこたれられ無しのされた報告だったからです。教育は子どもたちの気持ちや願いに寄り添いながら現場の先生方が努力を積み重ねる営みです。教育行政のやるべきことは、現場の先生方の教育環境を整え、支えていくことにつきます。“効率”を優先する民営化が、現場の先生の営みをどれくらい保障してくれるのでしょうか。そのことが教育改革の試金石だと思います。新しい教育長を迎える広島県教育行政が、平川教育長の推進した教育「改革」を無批判に継承するのではなく、子どもたちの一人ひとりの豊かな成長を保障するために日々がんばっている現場の教職員の努力を応援する改革を推進することが、県民の信頼を真に回復することだと肝に銘じてほしいものです。

(文責：本間英次)

\*平川教育長に関する疑惑追及について、以下の高校連絡会ニュースに掲載しています。「高校連絡会」ホームページで見ることができます。

- ①2022/9/8 「平川教育長疑惑を考える～「公」の私物化は「公」を腐らせる！」
- ②2022/10/6 「平川教育長疑惑を考える第2弾～平川教育長の責任とは」
- ③2023/2/2 「平川教育長疑惑を考える第3弾～これって何か変じゃないですか?!」
- ④2023/2/23 「平川教育長に教育行政をまかせていいのか!～新自由主義教育の罪」
- ⑤2023/6/22 「平川教育長、もうお辞めになりませんか」



**【お知らせとお詫び】**先週は事務局の2名(村井、近藤)が、コロナの陽性となり休刊しました。お詫びいたします。

▼3年ほど前から、喘息と診断され、「なかなか、咳が抜けきらないのですが」と問うと、医師から「喘息は治るものではありません」とあっさり切っ  
て捨てられ、まあそういうものか、と  
観念していました▼今回も、ビラ配りや選挙  
対策会議と、週3回の保育所勤務に木曜日の  
連絡会(夜なべ仕事)で、しんどいだろう  
なあ。とは思っていましたが、それでも熱は  
出ず「喘息の薬を貰おう」位の気持ちで、病  
院に行くのと何と、「コロナ陽性」の宣告▼そ  
ればかりか、保険を国保から協会健保に変わ  
ったのに伴って、2割負担か3割負担の用紙  
がないので、当面全額負担です▼「全額負  
担なので」3万円の薬を出しましょうか」と  
言われ、翌日3万円を抱えて再度病院に。と  
ころが、「3万円は公費負担が入ってる額な  
ので本来は9万円だ」との説明。すったもん  
だして、3万円で何とか薬をもらいました▼  
思えば、コロナの3年間、財政はコロナ対策  
と銘打てば、何でもありの様相を呈し、パン  
ナを先頭に、うまく立ち回って公的資金を自  
らの資金に取り込むことが横行しました▼そ  
のドタバタの間に、軍事費も2倍にすると、  
国会での議論も経ずに決定▼そして、現在パ  
ーティ券裏金作りを暴いたしんぶん赤旗の  
スクープ(2022/1/106)と上脇博之神戸学院大  
学教授の告発から、自民党政治が大企業  
の金まみれ構造の中で、動いてきた(いる)こ  
とが、誰の眼にも明らかになった▼国民の血  
税を一円たりとも、無駄にしないように、今  
の政治構造を変えるしかない!の声をもつと大  
きく拡げて行こう。

2024/03/07